

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホクシントミサリガクエン 学校法人 富澤学園								
フリガナ大学の名称	トホクブンキョウガクイフクタンキダイガクブ 東北文教大学短期大学部								
大学本部の位置	山形県山形市片谷地515								
大学の目的	東北文教大学短期大学部は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神にのっとり人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	東北文教大学短期大学部子ども学科の2024年の入学定員充足率は46%であり、年々低下している。そのため、子ども学科の入学定員を30人減じ、入学定員及び収容定員の適正化をはかり、よりきめ細やかな指導を行う体制とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	子ども学科	2年	70人 (100)	-	140人 (200)	短期大学士 (子ども学)	教育学・ 保育学関係	令和7年4月 第1年次	山形県山形市片 谷地515
計									
同一設置者内における変更 (定員の移行、 名称の変更等)	東北文教大学短期大学部 子ども学科〔定員減〕 (△30) (令和7年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計	単位			
		科目	科目	科目	科目	単位			
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計	人	人	
新設	子ども学科	5人 (5)	1人 (1)	3人 (3)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	11人 (11)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	9 (9)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	9 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計	5 (5)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	
既設	現代福祉学科	3人 (3)	3人 (3)	0人 (0)	1人 (1)	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	7 (7)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	3 (3)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
分	計	3 (3)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	7 (7)	
合計		8 (8)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	- (-)	

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人

職 種		専 属	そ の 他	計					
事 務 職 員		11 (11)	0 (0)	11 (11)					
技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
図 書 館 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
指 導 補 助 者		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		11 (11)	2 (2)	13 (13)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	1,932㎡	31,215㎡	4,958㎡	38,105㎡				
	そ の 他	0㎡	3,806㎡	0㎡	3,806㎡				
	合 計	1,932㎡	35,021㎡	4,958㎡	41,911㎡				
校 舎	専 用	1,900㎡	9,454㎡	2,495㎡	13,850㎡				
	( 1,900㎡ )	( 9,454㎡ )	( 2,495㎡ )	( 13,850㎡ )					
教 室 ・ 教 員 研 究 室	教 室		室	教 員 研 究 室	室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点		
		冊	冊	種	種				
		( )	( )	( )	( )	( )	( )		
	計	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
ス ポー ツ 施 設 等	ス ポー ツ 施 設		講 堂			厚 生 補 導 施 設			
	㎡		㎡			㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	-千円	-千円	-千円	-千円
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	-千円	-千円	-千円	-千円
		図書購入費	600千円	600千円	600千円	-千円	-千円	-千円	-千円
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		子ども学科	1,237千円	957千円	-千円	-千円	-千円	-千円	
現代福祉学科	1,277千円	977千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	東北文教大学短期大学部							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	子ども学科	年	人	年次 人	人	短期大学士 (子ども学)	0.63	平成17 年度	山形県山形市片谷地 515
	現代福祉学科	2	100	-	200	短期大学士 (現代福祉学)	0.40	平成13 年度	
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	東北文教大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	人間科学部 子ども教育学科	4	70	5	290	学士 (教育学)	0.93	平成22 年度	山形県山形市片谷地 515
	人間関係学科	4	60	5	250	学士 (人間関係学)	0.76	令和3年 度	
附属施設の概要	東北文教大学付属幼稚園（山形市片谷地515、収容定員150名、現員147名）								

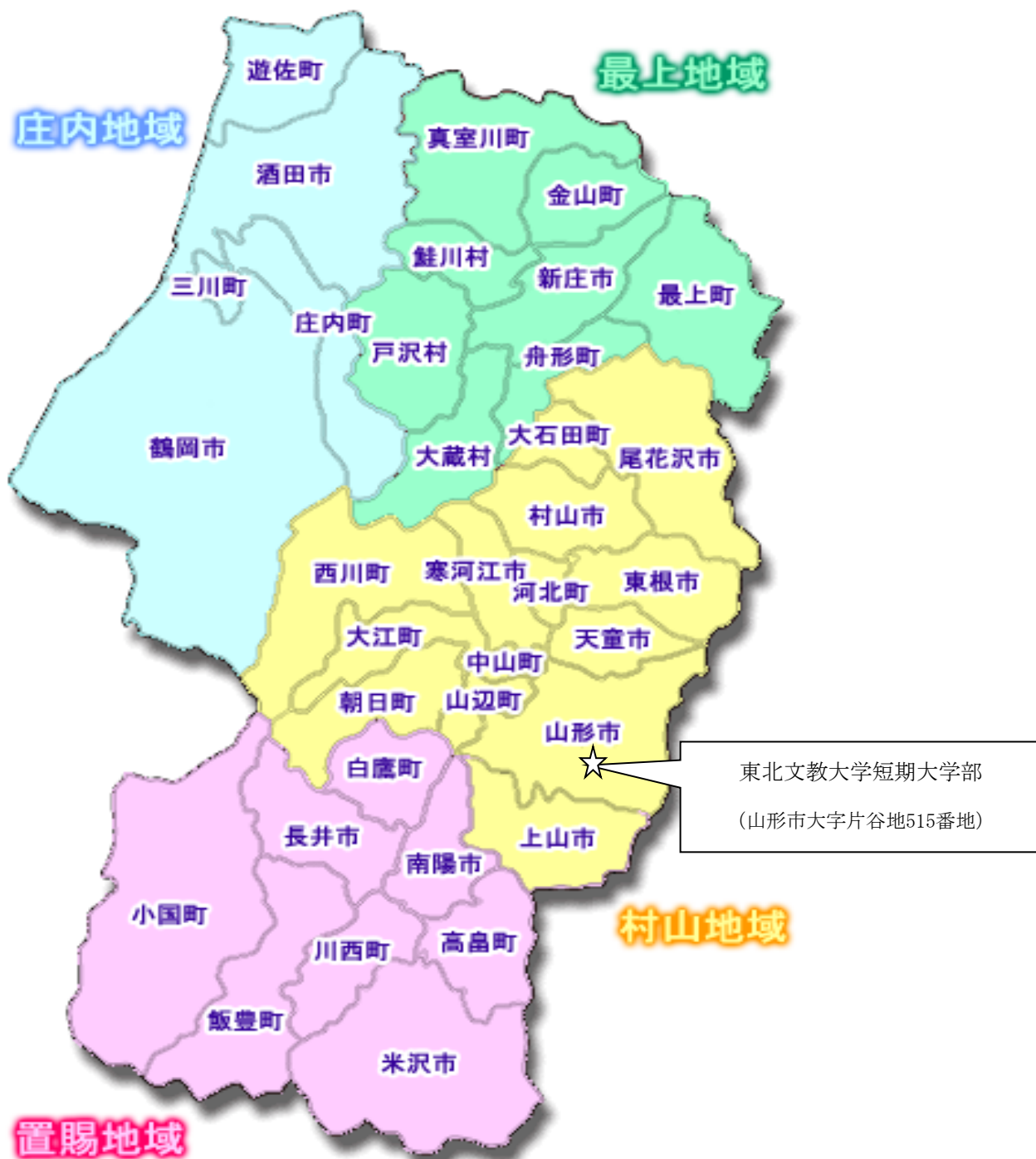
(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人富澤学園 定員変更の届出に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科	70	3年次 5	290		東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科	70	3年次 5	290	
人間関係学科	60	3年次 5	250		人間関係学科	60	3年次 5	250	
計	130	3年次 10	540		計	130	3年次 10	540	
東北文教大学 短期大学部				→	東北文教大学 短期大学部				
子ども学科	100	-	200		子ども学科	70	-	140	定員変更(△30)
現代福祉学科	30	-	60		現代福祉学科	-	-	-	令和6年度廃止届出予定
計	130		260		計	70		140	

(1) 山形県内における位置関係の図面



(1)-2山形市内における位置関係の図面

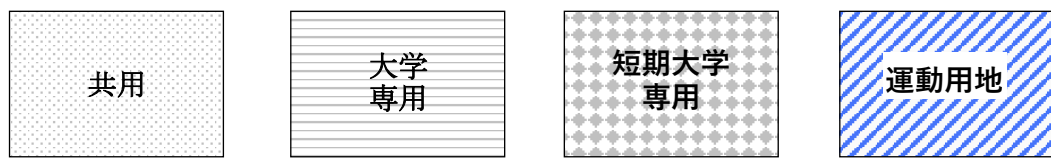
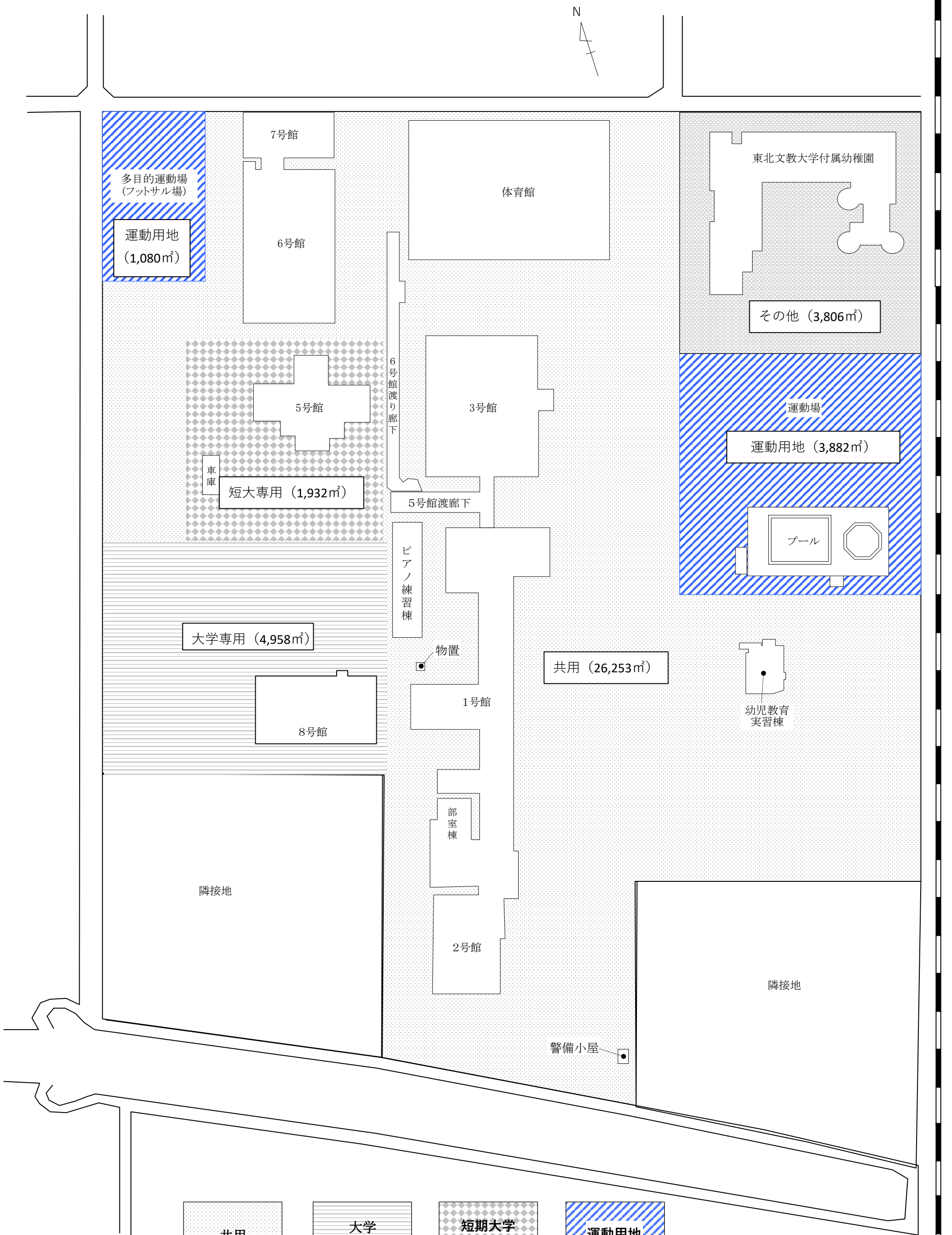


## (2) 最寄駅からの距離や交通機関がわかる図面



※JR奥羽本線「蔵王駅」より徒歩7分

### (3) 校舎の配置図



区分	大学専用	共用	短大専用	合計
校舎敷地	4,958㎡	26,253㎡	1,932㎡	33,143㎡
校地等面積	0㎡	4,962㎡	0㎡	4,962㎡
その他	0㎡	3,806㎡	0㎡	3,806㎡
校舎面積	2,495㎡	9,454㎡	1,900㎡	13,850㎡

蔵王駅

# 東北文教大学短期大学部学則

## 第1章 総 則

### (目 的)

第1条 東北文教大学短期大学部（以下、「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または實際生活に必要な能力を育成するとともに、「敬・愛・信」の建学の精神にのっとり人間性豊かな、真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成を目的とする。

### (位 置)

第2条 本学を山形県山形市大字片谷地字谷地515番地に置く。

### (自己評価等)

第3条 本学は、教育水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価結果並びに本学職員以外の者による検証に関する事項は別に定める。

## 第2章 学科、学生定員及び修業年限

### (学科及び学生定員)

第4条 本学において設置する学科及び学生定員は次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
子ども学科	70名	140名

### (修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は、2年とする

2 学生は、4年を超えて在学することはできない。

## 第3章 学年、学期及び休業日

### (学 年)



第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第7条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日

2 夏期、冬期および春期休業に関しては、別に定める。

3 前二項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、また休業日を変更することができる。

#### 第4章 入学、退学及び休学

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

(1) 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程よりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有する者として指定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(7) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で18歳以上に達した者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて、本学が指定する期日までに、学長に提出しなければならない。

2 提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第13条 前条の選考の結果にもとづき合格の通知を受けた者は所定の期日までに、保証人連署による誓約書を添えて、所定の入学手続きをとらなければならない。

2 前項の入学手続きを完了した者に、教授会の審議を経て、学長が入学を許可する。

(保証人)

第14条 保証人は、保証人としての責務を果し得る者でなければならない。

2 保証人の身分、住所に異動があったとき、又は死亡あるいはその他の理由でその責務を尽くし得ないときは、あらたに保証人を選定し、学長に届けなければならない。

(編入学・再入学・転入学)

第15条 本学に編入学、再入学又は転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、教授会の審議を経て、学長が相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の審議を経て、学長が決定する。

(退学)

第16条 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(休学)

第17条 疾病その他やむを得ない理由により2カ月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病その他やむを得ない理由により修学することが適当でない認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第18条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は第5条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

第19条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

第20条 次の各号の1に該当する者は、教授会の審議を経て学長が除籍する。

(1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者

(2) 第18条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者

(3) 学納金等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(4) 長期にわたり居所不明の者

## 第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 授業科目を分けて、子ども学科は教養科目、専門科目(保育の本質・目的、保育の対象の理解、保育の内容と方法、保育展開のための知識・技術、保育実践)、卒業研究とする。

2 授業科目の種類、単位数等は別表第1のとおりとする。

3 外国人留学生及び外国人留学生以外の学生で、外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けた者(以下、帰国子女という。)の教育について本学が必要と認める場合には、日本語科目及び日本事情に関する科目を開設する。

(1年間の授業期間)

第22条 1年間の授業期間は、試験等の日数を含め、35週以上とする。

(授業の方法)

第23条 本学における授業は、講義、演習、実験、実習または実技のいずれ

か、またはこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。
- 4 第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
- 5 卒業に必要な所定の単位数のうち、第2項に規定する授業の方法により修得する単位数は30単位を超えないものとする。
- 6 第2項の授業を実施する授業科目については別に定める。

#### (単位計算方法)

第24条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、原則として15時間の授業をもって1単位とし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、原則として45時間の授業をもって1単位とし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

#### (単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験等に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 各科目について出席すべき時間数の3分の2に満たない場合は、その科目修得の単位を与えることができない。
- 3 試験等に関する事項は別に定める。

#### (単位数の上限)

第26条 卒業の要件として1年間に履修科目として登録することができる

単位数の上限については別に定める。

- 2 所定の単位を優れた成績をもって修得した者については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。

#### (学習の評価)

第27条 試験等の評価は、S、A、B、C、Dをもって表わし、C以上を合格とする。

2 評価に関する事項は別に定める。

(他学科の授業科目の履修)

第28条 本学において教育上有益と認めるときは、他学科において履修した授業科目については、教授会の審議を経て、学長が30単位を超えない範囲で認めることがある。

(入学前の既修得単位の取扱)

第29条 本学において教育上有益であると認めるときは、学生が入学する前に専修学校の専門課程（専門士の称号が付与されている課程）、短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、教授会の審議を経て、学長が入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が入学する前に行った第31条第1項に規定する学修を、教授会の審議を経て、学長が本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

(他の短期大学又は大学における授業科目の履修等)

第30条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が専修学校の専門課程（専門士の称号が付与されている課程）、他の短期大学又は大学の科目を履修し修得した単位を、教授会の審議を経て、学長が30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の短期大学又は大学に留学する場合に準用する。この場合修得したものとみなすことのできる単位数は、前項及び第33条第2項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

第31条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う専修学校の専門課程（専門士の称号が付与されている課程）、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の審議を経て、学長が本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により修得したとみなした単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(本学での履修以外で修得した単位数の限度)

第32条 第29条、第30条及び第31条の規定により修得した単位数は、合計で45単位を超えないものとする。

(外国人留学生等に関する履修方法の特例)

第33条 外国人留学生及び帰国子女が第21条第3項に規定する授業科目の単位を修得したときは、これらの単位をもって第21条第2項に規定する授業科目の単位に代えることができる。

2 前項の規定の実施に関して必要な事項については、別に定める。

## 第6章 卒業等

(卒業要件)

第34条 本学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、各学科で定める次の単位を取得しなければならない。

(1) 子ども学科

教養科目については8単位以上、専門科目については保育の本質・目的から6単位以上、保育の対象の理解から3単位以上、保育の内容と方法から6単位以上、保育展開のための知識・技術から4単位以上、卒業研究2単位を含め、総計62単位。

(卒業)

第35条 本学に2年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

2 前条の要件を満たした者が、卒業延期を願い出た場合、学長は、教授会の審議を経て、これを許可することができる。

3 卒業延期に関し、必要な事項は別に定める。

(短期大学士の学位)

第36条 前条により卒業した者には、教授会の審議を経て、次の区分に従い、学長が短期大学士の学位を授与する。

学 科	学 位
子ども学科	短期大学士(子ども学)

(資格の取得)

第37条 本学において取得することができる資格及び免許状の種類は次のとおりとする。

学科名	資格及び免許状の種類
子ども学科	幼稚園教諭二種免許状、保育士、 キャンプインストラクター、社会福祉主事任用資格、 知的障害者福祉司任用資格

- 2 幼稚園教諭二種免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則の規定する授業科目について必要な単位を修得しなければならない。(授業科目名・単位数は別表2)
- 3 保育士の資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の授業科目及び単位数並びに履修方法の規定する授業科目について必要な単位を修得しなければならない。  
(授業科目名・単位数は別表3)
- 4 キャンプインストラクターの資格を取得しようとする者は、日本キャンプ協会のキャンプインストラクター認定に関する規程に定められた科目及び単位数を修得しなければならない。
- 5 社会福祉主事任用資格を取得しようとする者は、学則第34条の卒業要件を充足し、社会福祉法第19条第1項第1号の規定にもとづき、厚生労働大臣の定めた授業科目及び単位を修得しなければならない。
- 6 知的障害者福祉司任用資格を取得しようとする者は、学則第34条の卒業要件を充足し、知的障害者福祉法第14条第2号の規定にもとづき、厚生労働大臣の定めた授業科目及び単位を修得しなければならない。

## 第7章 入学検定料、入学金、および学納金等

(入学検定料、入学金および学納金等)

第38条 入学検定料、入学金および学納金等の額は、別表第6のとおりとする。

2 入学金は、第13条第1項に規定する入学手続きを行うときに指定する期日までに納付しなければならない。

3 学納金は、毎年これを前期、後期の2回に分けて指定する期日までに納入しなければならない。

(学納金の免除、徴収の猶予または分納)

第38条の2 特別の事情があると認められたものについては、入学金、学納金等の全部または一部を免除し、徴収を猶予し、または分納を許可することがある。

(退学等の場合の学納金等)

第39条 前期または後期の途中において退学した者、転学した者または除籍された者は、当該学期の学納金等を全額納入しなければならない。

2 停学の場合は、その期間中の学納金を納入しなければならない。

(休学の場合の学納金等)

第40条 休学を許可され又は命ぜられた者については、休学期間中の学納金等を免除する。ただし学期中途の場合、当該学期分の学納金等は納付しなければならない。

(復学の場合の学納金等)

第41条 学期の中途において復学した者は、復学した当該学期分の学納金等を復学した月の末日までに納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の学納金等)

第42条 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの当該学期までの学納金等を納付するものとする。

(入学を辞退する場合の入学金)

第43条 入学手続き完了後入学を辞退する者の入学金については、これを還



付しない。

## 第 8 章 教職員組織

(教職員組織)

第 4 4 条 本学に学長、教授、事務職員、を置く。

- 2 前項のほか、副学長、短期大学部長（以下、「学部長」という。）、学科長、准教授、講師、助教、助手、その他必要な職員を置くことができる。
- 3 学長は本学を代表し、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- 4 副学長は、学長を補佐し、命を受けて校務をつかさどる。
- 5 学部長は、短期大学部に関する校務をつかさどり、所属職員を監督する。
- 6 学科長は、当該学科に関する校務をつかさどり、所属職員を監督する。
- 7 教授、准教授、講師及び助教は、教育・研究に従事し、学生の指導に当たり、学部・学科の管理運営に参画する。
- 8 助手は、教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 9 その他、教職員組織に関し必要な事項は、別に定める。

## 第 9 章 教授会

(教授会)

第 4 5 条 本学に教授会を置く。

- 2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
  - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
  - (2) 学位の授与
  - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(教授会の構成)

第 4 6 条 教授会は、教授、准教授、講師、助教をもって組織する。

(教授会の成立要件)

第 4 7 条 教授会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ開催することが

できない。

(その他)

第48条 本章に定めるもののほか、教授会に関し、必要な事項は別に定める。

## 第10章 科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第49条 本学の授業科目の履修を希望する者がいるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて、教授会の審議を経て、学長が科目等履修生として履修を許可することがある。

2 科目等履修生について必要な事項は別に定める。

(特別聴講学生)

第50条 本学の授業科目の履修を希望する者がいるときは、本学の教育に支障がない限りにおいて特別聴講学生として、教授会の審議を経て、学長が履修を許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

(外国人留学生)

第51条 外国人で、短期大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者がいるときは、選考の上、教授会の審議を経て、学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は別に定める。

## 第11章 賞 罰

(表 彰)

第52条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰する。

2 表彰に関する必要な事項は別に定める。

(懲 戒)

第53条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は次の各号の1に該当する学生に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業不振で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 懲戒に関する必要な事項は別に定める。

## 第 1 2 章 厚生施設

(健康管理)

第 5 4 条 学生は、定期的に行う健康診断を受けるほか、随時健康診断を受けて、疾病の予防と健康の増進につとめなければならない。

2 厚生並びに保健に関する施設およびその利用方法については、別に定める。

## 第 1 3 章 公開講座

(公開講座)

第 5 5 条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 講座の内容に応じ、教授会の審議を経て、学長が受講者を第 5 1 条の科目等履修生に準ずる者とみなし、単位を与えることができる。

## 第 1 4 章 改正

(改正)

第 5 6 条 本学則の改正は、教授会の審議を経て、学長が決定し理事会の承認を得る。

附 則

本学則は、昭和 4 1 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 4 2 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 5 0 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 5 1 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 5 2 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 5 3 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和 5 4 年 4 月 1 日から施行する。

本改正学則は、昭和55年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和56年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和57年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和58年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和59年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和60年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和60年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成元年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成2年4月1日から施行する。

ただし、第4条の規程にかかわらず平成2年度から平成11年度までの国文科、英文科の入学定員及び学生収容定員は次のとおりとする。

なお、平成2年度以降から入学した者に適用する。

区 分	平成2年度		平成3年度～平成10年度		平成11年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
国文科	130	230	130	260	100	230
英文科	100	170	100	200	70	170

本改正学則は、平成3年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成4年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成5年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成6年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成7年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成8年4月1日から施行する。  
 本改正学則は、平成9年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成9年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成10年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成10年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成11年4月1日から施行する。

ただし、第4条の規定にかかわらず平成11年度から平成12年度までの国文科、英文科の入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

区 分	平成11年度		平成12年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
国文科	130	260	100	230
英文科	100	200	70	170

なお、平成11年度以降から入学した者に適用する。

本改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

ただし、第4条の規定にかかわらず平成12年度から平成16年度までの国文科、英文科の入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

区 分	平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
国文科	128	258	128	256	126	254
英文科	100	200	98	198	98	196
区 分	平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
国文科	126	252	125	251	100	225
英文科	96	194	95	191	70	165

なお、平成12年度以降から入学した者に適用する。

本改正学則は、平成13年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成13年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成13年10月1日から施行する。

なお、この学則は平成14年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成14年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成15年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成15年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成16年4月1日から施行する。

区 分	平成16年度		平成17年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
国文科	100	226	100	200
英文科	70	166	70	140

なお、この学則は平成16年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、

1. 平成17年4月1日より施行する。なお、この学則は平成17年度の入学生より適用する。

2. 国文科、英文科、幼児教育科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

本改正学則は、平成18年1月1日より施行する。

なお、第10章の章名及び第52条については、平成18年4月1日より

施行する。

本改正学則は、平成19年4月1日より施行する。

なお、別表第5「1. 入学検定料」については、平成18年10月1日より施行する。

本改正学則は、平成20年4月1日より施行する。

本改正学則は、平成21年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成21年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成22年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成22年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成23年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成23年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成24年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成24年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成25年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成25年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成26年4月1日より施行する。

なお、この学則は平成26年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成27年4月1日より施行する。

なお、現に在学する学生は、学則第21条、第36条、第39条、別表第1及び別表第3に関しては従前の学則とする。

本改正学則は、平成28年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成28年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成29年2月20日から施行する。

本改正学則は、平成29年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成29年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

本改正学則は、平成30年4月1日から施行する。

なお、この学則は平成30年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

この改正学則は、平成31年4月1日から施行する。

なお、この学則は、平成31年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前

の学則とする。

この改正学則は、令和2年4月1日から施行する。

なお、この学則は、令和2年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

この改正学則は、令和3年4月1日から施行する。

なお、この学則は、令和3年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

この改正学則は、令和4年4月1日から施行する。

なお、令和3年度において在学していた学生は、学則第21条、第34条、第37条、別表第1及び別表第4に関しては従前の学則とする。

この改正学則は、令和5年4月1日から施行する。

なお、この学則は、令和5年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

この改正学則は、令和6年2月15日から施行する。

この改正学則は、令和6年2月15日に制定し、令和7年4月1日から施行する。

なお、この学則は、令和7年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。

別表第1 子ども学科

区分	科目名	単位数		備考		
		必修	選択			
教養科目	現代子ども論	2		教養科目から8単位以上		
	基礎演習A	1				
	基礎演習B	1				
	日本国憲法		2			
	倫理学		2			
	英語I	1				
	英語II	1				
	英語コミュニケーション		2			
	海外語学研修		2			
	スポーツサイエンスA		1			
	スポーツサイエンスB		1			
	情報処理基礎		2			
	キャンプ概論		1			
	野外活動		1			
	基礎日本語		2			
専門	教育原理	2		保育の本質・目的から6単位以上		
	保育原理	2				
	教育制度		2			
	社会福祉		2			
	子ども家庭福祉		2			
	保育者の職務と意義		2			
	特別支援教育		1			
	保育カリキュラム論		2			
	社会的養護I		2			
	子ども家庭支援		2			
	発達心理学		2		保育の対象の理解から3単位以上	
	子どもの理解と援助		1			
	子ども家庭支援の心理学		2			
	子どもの保健		2			
	子どもの健康と安全		1			
子どもの食と栄養I		1				
子どもの食と栄養II		1				
科目	幼児と健康	1		保育の内容と方法から6単位以上		
	幼児と人間関係	1				
	幼児と環境	1				
	幼児と言葉	1				
	幼児と表現	1				
	保育内容(健康)の指導法		1			
	保育内容(人間関係)の指導法		1			
	保育内容(環境)の指導法		1			
	保育内容(言葉)の指導法		1			
	保育内容(表現)の指導法		1			
専門	保育の内容と方法	保育内容総論I		1	保育展開のための知識・技術から4単位以上	
		保育内容総論II		1		
		子どもと運動遊び		1		
		子どもと音遊び		1		
		子どもと造形遊び		1		
		教育方法論		2		
		教育の方法と技術		2		
		教育相談		2		
		乳児保育I		2		
		乳児保育II		1		
		障害児保育		2		
		社会的養護II		1		
		子育て支援		1		
		保育展開のための知識・技術	音楽の基礎A			1
			音楽の基礎B			1
	子どもの遊びと体験			1		
	社会的養護の展開			2		
	子どもの生活			1		
	児童文化			1		
	保育の表現			1		
	音楽の応用			1		
	音楽の発展			1		
	合唱			2		
	音楽	合奏		2		
		器楽		1		
保育実習		教育実習I		2		
		教育実習II		2		
	保育実習IA		2			
	保育実習IB		2			
	保育実習IIA		2			
	保育実習IIB		2			
	教育実習指導I		1			
	教育実習指導II		1			
実践	保育実習指導IA		1			
	保育実習指導IB		1			
	保育実習指導IIA		1			
	保育実習指導IIB		1			
卒業研究	卒業研究I	1		2単位		
卒業研究II	1					



## 別表第2 幼稚園教諭二種免許状【子ども学科】

1. 基礎資格「短期大学士の学位」を取得
2. 教員免許状取得に必要な科目と単位

免許法施行規則に定める科目区分等			対応する本学開設授業科目	単位数		備考
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		必修	選択	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	・領域に関する専門的事項	12	幼児と健康	1		
			幼児と人間関係	1		
			幼児と環境	1		
			幼児と言葉	1		
			幼児と表現	1		
	・保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		保育内容(健康)の指導法	1		
			保育内容(人間関係)の指導法	1		
			保育内容(環境)の指導法	1		
			保育内容(言葉)の指導法	1		
			保育内容(表現)の指導法	1		
			保育内容総論Ⅰ	1		
保育内容総論Ⅱ	1					
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	6	教育原理	2		
			保育者の職務と意義	2		
			教育制度	2		
			発達心理学	2		
			特別支援教育	1		
			保育カリキュラム論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	4	教育の方法と技術	2		
			教育方法論	2		
			子どもの理解と援助	1		
			教育相談	2		
教育実践に関する科目	・教育実習	5	教育実習指導Ⅰ	1		
			教育実習指導Ⅱ	1		
			教育実習Ⅰ	2		
			教育実習Ⅱ	2		
	・教職実践演習		2	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	
大学が独自に設定する科目		2	子どもと運動遊び		1	
			子どもと音遊び		1	
			子どもと造形遊び		1	
			音楽の基礎A	1		
			音楽の基礎B	1		
			子どもの遊びと体験	1		

その他の科目（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目と単位）

免許法施行規則第66条の6に定める科目	単位数	対応する本学開設授業科目	単位数		備 考
			必修	選択	
日本国憲法	2	日本国憲法	2		
体育	2	スポーツサイエンスA	1		
		スポーツサイエンスB	1		
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーション	2		
情報機器の操作	2	情報処理基礎	2		

別表第3 保育士【子ども学科】

区分	系列	教科目	指定授業形態	指定単位数	教科目名	授業形態	単位数	時間数	備考		
告示による教科目	教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6単位以上	現代子ども論	講義	2	30	外国語、体育以外の科目から6単位以上		
					基礎演習A	演習	1	30			
					基礎演習B	演習	1	30			
					日本国憲法	講義	2	30			
					倫理学	講義	2	30			
					情報処理基礎	演習	2	30			
		外国語	演習	2単位以上	英語Ⅰ	演習	1	30			
					英語Ⅱ	演習	1	30			
					英語コミュニケーション	演習	2	30			
		体育	講義 実技	1	スポーツサイエンスA	講義・実技	1	30	2単位		
スポーツサイエンスB	講義・実技				1	30					
告示別表第1による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	30	告示別表第1による教科目52単位		
		教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	30			
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2	30			
		社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	30			
		子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援	講義	2	30			
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	30			
		保育者論	講義	2	保育者の職務と意義	講義	2	30			
		理解に関する科目	保育の対象の	保育の心理学	講義	2	発達心理学	講義		2	30
				子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義		2	30
				子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習		1	30
	子どもの保健			講義	2	子どもの保健	講義	2	30		
	子どもの食と栄養			演習	2	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1	30		
						子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	30		
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	30			
					保育内容総論	演習	1	保育内容総論Ⅰ	演習	1	30
		保育内容演習	演習	5	幼児と健康	演習	1	30			
					幼児と人間関係	演習	1	30			
					幼児と環境	演習	1	30			
					幼児と言葉	演習	1	30			
					幼児と表現	演習	1	30			
		保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容（健康）の指導法	演習	1	30			
					保育内容（人間関係）の指導法	演習	1	30			
					保育内容（環境）の指導法	演習	1	30			
					保育内容（言葉）の指導法	演習	1	30			
					保育内容（表現）の指導法	演習	1	30			
		乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	30			
		乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1	30			
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1	30				
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2	30				
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1	30				
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1	30					
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA	実習	2	90				
				保育実習ⅠB	実習	2	90				
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1	30				
				保育実習指導ⅠB	演習	1	30				
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2	30				

区分	系列	教科目	指定授 業形態	指 定 単位数	教 科 目 名	授業形態	単位数	時間数	備 考			
告示別表第2による教科目	保育の本質・目的に関する科目			15 単 位 以 上	社会的養護の展開	講義	2	30	6単位以上			
					教育制度	講義	2	30				
	保育の対象の理解に関する科目											
	保育の内容・方法に関する科目					子どもと運動遊び	演習	1		30		
						子どもと音遊び	演習	1		30		
						子どもと造形遊び	演習	1		30		
						子どもの生活	演習	1		30		
						児童文化	演習	1		30		
						保育の表現	演習	1		30		
						教育方法論	講義	2		30		
						教育の方法と技術	講義	2		30		
						保育内容総論Ⅱ	演習	1		30		
						特別支援教育	演習	1		30		
	保育実習				実習	2	保育実習Ⅱ A	実習		2	90	どちらか一方を選択
					実習	2	保育実習Ⅱ B	実習		2	90	
演習				1	保育実習指導Ⅱ A	演習	1	30	どちらか一方を選択			
演習				1	保育実習指導Ⅱ B	演習	1	30				

#### 別表第4

1. 入学検定料

30,000円
---------

ただし、大学入学共通テストを利用した場合15,000円

2. 入 学 金

280,000円
----------

納付期限は、合格発表の日から本学の指定する入学手続完了日時までとする。

3. 学 納 金

(1) 授業料等

項 目	子ども学科	
	前 期	後 期
授 業 料	310,000円	310,000円
教 育 充 実 費	71,000円	71,000円
施 設 拡 充 費	97,500円	97,500円
実 験 実 習 費	35,000円	35,000円
合 計	478,500円	478,500円

※入学年度の学納金額は卒業年度まで据え置きとする。

(2) 授業料等の納付期限

前 期 分	4月1日～4月20日まで
後 期 分	10月1日～10月20日まで

(3) 卒業延期者の納付金

項 目	在 籍 料
前期（半年）	30,000円
後期（半年）	30,000円

※学則第40条2に該当する学生に適用する。

4. 納入期限に関わらず、再入学・転入学・編入学の場合の入学金及び学納金、復学・転学科の場合の学納金の納付期限は、本学が別に指定する手続完了日までとする。

## 学則変更の事由および変更点

(1) 変更事項を記載した書類

東北文教大学短期大学部子ども学科の入学定員を 100 人から 70 人に減員し、収容定員を 200 人から 140 人に変更する。

(2) 学則変更部分の新旧対照表

新 学 則	旧 学 則															
<p>(学科及び学生定員)</p> <p>第 4 条 本学において設置する学科及び学生定員は次のとおりとする。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学 科</td> <td style="text-align: center;">入学定員</td> <td style="text-align: center;">収容定員</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">子ども学科</td> <td style="text-align: center;"><u>70名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>140名</u></td> </tr> </table>	学 科	入学定員	収容定員	子ども学科	<u>70名</u>	<u>140名</u>	<p>(学科及び学生定員)</p> <p>第 4 条 本学において設置する学科及び学生定員は次のとおりとする。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学 科</td> <td style="text-align: center;">入学定員</td> <td style="text-align: center;">収容定員</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">子ども学科</td> <td style="text-align: center;"><u>100名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>200名</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">現代福祉学科</td> <td style="text-align: center;">30名</td> <td style="text-align: center;">60名</td> </tr> </table>	学 科	入学定員	収容定員	子ども学科	<u>100名</u>	<u>200名</u>	現代福祉学科	30名	60名
学 科	入学定員	収容定員														
子ども学科	<u>70名</u>	<u>140名</u>														
学 科	入学定員	収容定員														
子ども学科	<u>100名</u>	<u>200名</u>														
現代福祉学科	30名	60名														
<p>附 則</p> <p style="text-align: center;">省略</p> <p><u>この改正学則は、令和 6 年 2 月 15 日制定し令和 7 年 4 月 1 日から施行する。</u></p> <p><u>なお、この学則は、令和 7 年度の入学者から適用し、現に在学する学生には、従前の学則とする。</u></p>	<p>附則</p> <p style="text-align: center;">省略</p>															

## 目次

- (1) 学則変更（収容定員変更）の内容 . . . . . p.2
- (2) 学則変更（収容定員変更）の必要性 . . . . . p.2
- (3) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更内容 . . p.2

## 5. 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### (1) 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7年4月より、子ども学科の入学定員を、100人から70人に減員し、収容定員を200人から140人に変更する。

### (2) 学則変更（収容定員変更）の必要性

東北文教大学短期大学子ども学科の入学定員充足率は、2022年度以降100%を下回る状況が続いており、2024年度については46%と入学定員を充足することが難しい状況となっている。現在、この現状の改善を図るべく、カリキュラムの充実や検討などの努力を行っているが、入学定員の見直しを行い定員の適正化をはかることで、よりきめ細やかな指導を行うことができる。

### (3) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程の変更内容

今回の変更は、入学及び収容定員を減じるものであり、教育課程、教育方法及び履修指導方法、教員組織、大学全体の施設・設備に変更はない。そのため、従前の教員数でよりきめ細やかな指導が可能となり、変更前と比較して同等以上の内容が担保されている。



## 6. 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 新設組織の概要

#### ①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
東北文教短期大学部 子ども学科	70	140	山形県山形市片谷地 515

※当該組織は、入学定員を 100 人から 70 人、したがって収容定員を 200 人から 140 人へ変更する組織である。

#### ②新設組織の特色

当該組織は、学位として短期大学士（子ども学）を授与し、保育を総合的・多角的にとらえることのできる保育者を養成している。

多様性を持った現代の子どもたちに接する上では、一つの視点や価値観では推し量れない部分があり、多角的な視野と高い専門性に裏付けられた思考と判断をもって総合的に関わることが求められている。そのため、子ども学科ではカリキュラムの構成を工夫し、実習と授業を関連づけて学べるように「実習を核とする総合的カリキュラム」を謳っている。具体的には、実習の事前・事後指導で、保育の基礎や保育内容を学ぶ科目との連携を重視している。子どもの姿に基づく保育計画、子どもに寄り添った保育実践、実践を振り返っての保育や子どもの理解の改善・修正というサイクルを廻す総合的実践力のある保育者養成を目指している。

また、併設大学に小学校教諭、保育者を養成する学科があり、編入学の選択肢にもなっている。

関連既設組織	入学定員	3 年次編入 学定員	収容定員	所在地
東北文教大学 子ども教育学科	70	5	290	山形県山形市片谷地 515

### (2) 人材需要の社会的な動向等

#### ①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

子どもは一人ひとり違う人格や個性を持ち、育ちの段階もそれぞれである。このような多様な子どもたちに対し、個を活かす保育が現代の保育者には求められている。また、地域の子育て支援事業の多種・多様化により、子育て支援の場においても、高い人間性と社会性を兼ね備え、総合的実践力を有する保育者が求められている。本学では、

「真に社会に貢献しうる実践的な人間の育成」を目的とし、子ども学科では「敬・愛・信」の建学の精神に則り、未来をつくる子どもたちのために、保育・教育における、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた総合的実践力を有する人材の育成を目的としている。

## ②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

18 歳人口は全国的に減少しており、2035 年までに現在より 12 万人ほど減少が見込まれている。東北地方の減少率は全国的に見ても高く、入学者の確保は最重要課題となっている。さらに地方では、都市部への 18 歳人口の流出も課題となっている。大学進学率は増加傾向にあるが、短期大学への進学率は減少傾向にある。一方で、短期大学入学者の地元残留率は上昇傾向にあり\*、地元就職を考える 18 歳にとって、短期大学は進学先の候補に挙がりやすいと言える。子ども学科の過去 5 年間の平均就職内定率は 99.5% であり、求人状況も大幅に増えており、地域の人材需要はあると言える。

また、地域の子育て支援事業の多様化により、保育・教育現場における社会人の学び直しの機会、場所の確保が求められている。子ども学科では、毎年社会人経験者が学び直しの場として、本学科を選択し、入学している。

\* 出典：リクルート進学総研マーケットリポート 2023

## ③新設組織の主な学生募集地域

従前から、子ども学科の入学者は、ほとんどが県内出身者で県外出身者は毎年数名程度である。入学時点から、地元就職を視野に入れた学生が多く、地域の保育現場の需要に応じていると言える。それを踏まえ、学生募集地域は県内がほとんどで、妥当性があると言える。

【添付データ】別紙 1 「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」

## ④既設組織の定員充足状況

2019 年度の入学生が 103 名であったが、これ以降は 100 名を上回ることがなくなった。近隣の保育士養成科をもつ短期大学でも同様の状況で、県内全体として、18 歳人口の減少、18 歳人口の県外への流出と県外大学への進学率の上昇の影響が出ていると言える。定員を削減することにより、これまで以上に学生一人一人の深い学びを保障し、「人を敬い、人を愛し、人を信じる」といった建学の精神に基づく人間教育と、より質の高い保育者養成の充実を目指す。質の高い教育を提供することで、地域に貢献できる人材を養成し、さらには地域の需要にも応えていくことで、地域へ本学の人間教育を認識させ入学者の確保につなげる。

【添付データ】別紙 2 「既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近 5 年間）」

### (3) 学生確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

##### ア 既設組織における取組とその目標

本学では、入試委員会や入試広報センター委員会を中心として学生確保の取り組みを企画、実施している。広報活動においては、入学実績や地域、高校などの状況や特性を踏まえ、担当や配付資料を決定している。

学生募集活動に関わる広報活動としては、年2回(7月、12月)の高等学校訪問、6月の高校教員対象入試説明会の実施、学外での各種入試説明会への参加、オープンキャンパスの実施等がある。高等学校訪問は、7月に県内を中心に例年約50校を訪問し、12月は一般入試の対象校を中心に県内外30校程度を訪問している。高校教員対象入試説明会では、主に県内高校の進路指導担当教員が例年30校から参加している。

オープンキャンパスは、5月に1回、7、8月に4~5回実施している。

当該の子ども学科では、令和6年5月実施のオープンキャンパスの来場者数が11名で大学全体の参加者のうち約20%が子ども学科への参加者であった。オープンキャンパスでは、学科企画(教員による動きを取り入れた模擬授業、学生スタッフによるアイスブレイク、フリートーク等)を実施し、学科での学びや学生生活が想像できるように工夫をしている。

併設大学の子ども教育学科では、オープンキャンパスの来場者数が20名で大学全体の参加者のうち約40%が子ども教育学科への参加者であった。(令和6年5月実施)オープンキャンパスでは、学科企画(教員による模擬授業、学生スタッフによるアイスブレイク、フリートーク等)を実施し、教員や在校生と距離の近い企画を実施することで、入学者の確保につなげている。令和5年度はオープンキャンパス参加者のうち、54.6%が実際に入学をしている。

また、大学ホームページやSNS等で随時情報を発信している。さらに、広報誌「To Be!」をWebマガジン化し、学生達のキャンパスライフや学内外での活動、教員の研究活動等を紹介し、本学への理解が深まる情報を発信している。

【添付データ】別紙3「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績」

##### イ 新設組織における取組とその目標

子ども学科では、「①入試に向けた広報活動」、「②小中高への出前授業」を継続しているほか、令和6年度からは「③山形市民間立保育園・認定こども園協議会との連携」を図り、定員充足の取り組みの強化を図る。

「①入試に向けた広報活動」では、上記の①アに掲げた取り組みの中で、毎年の就職内定率98%以上の実績や、東北文教大学人間科学部子ども教育学科への編入学、更には大学院への進学など、多方面の進路が可能な特色をアピールする広報活動を行って

る。

また、幼児保育の将来を担う若者に対し、保育の魅力伝える広報事業として、「②小中高への出前授業」を実施している。また、系列校である東北文教大学山形城北高校の1年生を対象とした企画である「Johoku Summer Challenge」の中で学科の学習体験企画を実施しているほか、附属幼稚園を利用しての体験学習など系列校や域内高校からの進学を考えてもらう取り組みを行っている。

更に「③山形市民間立保育園・認定こども園協議会との連携」により、中・高生や社会人向けのキャリアガイダンスにも積極的に参加し、職業人育成としてのPRにより、本学への入学の誘導を図っている。

#### ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

「①入試に向けた広報活動」が直接的に入学者を獲得する取り組みであり、基本的には全体の10割を見込んでいる。また、「②小中高への出前授業」は、「出前授業」を通してのPR活動であり、この授業への参加者から毎年継続して入学者が得られてはいるが、間接的な学生確保の活動であり、1割弱程度の入学者確保を見込んでいる。「③山形市民間立保育園・認定こども園協議会との連携」もやはり間接的なPR活動であり、自治体と連携し、地域のニーズに応えることで若干の入学者を見込んでいる。

### ②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

#### ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学が所在する山形県の短期大学には、羽陽学園短期大学があり、本学子ども学科と同分野で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得できる幼児教育科を有している。入学定員規模も80名と同程度であり、所在地も本学と近いところにあり、学力層も同程度であると認識する。

羽陽学園短期大学と比較し、立地条件や取得できる資格はほとんど大差ない。羽陽学園短期大学の教育理念として、「他者理解を通して自己理解と自己改革を行い、社会活動に積極的に参加しながら、生涯にわたる自己実現を行い得る人間性豊かな人材の育成」を掲げており、「自己」に焦点をあてて教育を行っている。また、専攻科福祉専攻を設けて、介護福祉士も取得できるようにしている。一方、本学では「敬・愛・信」という言葉で表される人間像の育成にあり、「人を敬い、人を愛し、人を信じる」ことができる人間は、「人に敬われ、愛され、信じられる」人間になるという、自己と他者を含めた幅広い意味での「人」に焦点をあてて教育を行っている。また、付属幼稚園が同敷地内にあり、実践的な、より高度な教育を行っている。

また、入試の時期としては、総合型選抜については、3期に分かれて実施していることは変わらないが、本学の方が遅い時期に実施しており、進路選択について迷う学生についても考慮した入試日程となっている。また、第3期目の日程を2月以降に設

定することで、進路選択が遅い学生や、他校に落ちた学生や国立大学志望の学生等にも選択できるよう配慮した日程となっている。学校推薦型選抜や一般選抜については大差ないが、本学では短期大学でも大学入学共通テスト利用選抜を実施していることで、大学志望の学生で進路について迷っている学生の選択肢にもなっている。

さらに本学は大学を併設しており、授業内容も大学の内容と遜色ない内容となっており、高い質の教育を提供している。また、教育内容だけでなく学校生活においても、自治会活動やサークル活動において大学生と短大生の交流があり、お互いの刺激となっている。また、短大生の進路の一つに併設大学への編入学があり、さらなる資格取得や教養の深化につながっており、羽陽学園短期大学と比較しての強みとなっている。

#### イ 競合校の入学志願動向等

羽陽学園短期大学の過去3年間の入学志願状況をみると、本学と変わらない状況となっている。【資料1 本学子ども学科と競合校の入学志願状況等の比較】このことは、県内の18歳人口の県外への流出や大学への進学希望者の増加等、全国的な傾向の影響と考えられる。その中で、大学を併設している本学は、大学進学希望者にもアピールでき、さらに定員の適正化をはかることで、より質の高い教育を提供し、より質の高い保育者を養成することで定員の確保を図っていく。

#### ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

県内の状況として、18歳人口の県外流出が見られ、厳しい状況にあるが、大学進学者が増えている傾向より、本学は併設する大学があるので併設する大学への編入学の可能性を周知することで大学進学希望者の選択肢になり得る。また地域からは、子育て支援事業の多様化や多様性を持った子どもの増加により、高い専門性と知識、柔軟に課題に対応できる保育者が求められている。定員の適正化をはかり、より質の高い教育を提供し、地域課題に柔軟に対応できる保育者を養成することで地域のニーズにも応える。そうすることで、地域の本学への認知度、保育現場での本学への期待度を上げていき、定員の確保につなげる。

#### エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学では、1年時より実習を核としたカリキュラムを設定している。また、通常の授業においても、保育実践を重視するため演習形式の授業を多くおいており、演習室の充実も必須である。そのため、学納金のうち、教育充実費、施設拡充費、実験実習費を設定している。また、大学と共用の施設も多く、教育充実費、施設拡充費は大学と統一している。

### ③先行事例分析

該当なし

### ④学生確保に関するアンケート調査

アンケート調査は実施していない。併設大学の子ども教育学科では入学定員を90名から令和3年に70名に変更しており、その後は90%前後で推移していることから、定員の適正化を図り、安定した定員の確保を見込んでいる。【資料2 子ども教育学科入学定員充足状況】

### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

山形県私立幼稚園・認定こども園協会への聞き取りによると、保育現場では保護者対応や多様な子ども達への柔軟な対応に際して、地元出身者を望んでいる。また、本学卒業生の各方面での活躍により、本学卒業生を積極的に採用する動きが見える。定員の減少により、保育者の地域への排出も減少することが危惧されるが、より質の高い保育者を養成することにより地域の人材需要の要望に応じていく。

### (4) 新設組織の定員設定の理由

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）【別紙2】より、令和2年度～令和5年度の入学者数は77～98%を推移してきたが、令和6年度の入学者数は46名であった。入学定員を変更せずに現行のままですと、令和7年度の収容定員充足率が50%を切る可能性もある。さらに、本学短期大学部現代福祉学科が令和7年度より募集停止となり、令和8年度には廃止となり、短期大学部全体としても収容定員充足率が50%を下回ってしまう。これまで以上に学科の運営が厳しい状況となることが懸念される。定員の適正化と募集活動の強化により、更なる収容定員充足率の向上を見込み、在籍学生数と収容定員との適正化を図るものである。また、学生一人一人の深い学びを保障し、「人を敬い、人を愛し、人を信じる」という建学の精神に基づく人間教育と、質の高い保育者養成の充実を目指す。

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人数	構成比
1	山形	45人	97.8%
2	秋田	1人	2.2%
3			0.0%
4			0.0%
5			0.0%
	全体	46人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	東北（宮城県を除く）	75.39%	75.28%	71.89%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

※出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	教育系（短大）	78.98%	73.96%	68.36%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

※出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	23人	19人	19人	19人	25人	21人	
	延べ人数	志願者数	25人	22人	10人	15人	8人	16人
		受験者数	25人	22人	10人	15人	8人	16人
		合格者数	25人	19人	9人	15人	8人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	25人	22人	10人	15人	8人	16人
		受験者数	25人	22人	10人	15人	8人	16人
		合格者数	25人	19人	9人	15人	8人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	25人	19人	9人	15人	8人	15人	
	学校推薦型選抜	募集人数	68人	70人	70人	70人	70人	70人
		延べ人数	志願者数	59人	76人	58人	66人	35人
受験者数			59人	76人	58人	66人	35人	59人
合格者数			59人	73人	58人	66人	35人	58.2
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	59人	76人	58人	66人	35人	58.8
		受験者数	59人	76人	58人	66人	35人	58.8
		合格者数	59人	73人	58人	66人	35人	58.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		59人	73人	58人	66人	35人	58.2	
一般選抜		募集人数	5人	7人	7人	7人	5人	6.2
		延べ人数	志願者数	6人	6人	5人	0人	1人
	受験者数		6人	6人	2人	0人	1人	3
	合格者数		6人	6人	2人	0人	1人	3
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		4人	0人	0人	0人	0人	0.8
	実人数	志願者数	6人	6人	5人	0人	1人	3.6
		受験者数	6人	6人	2人	0人	1人	3
		合格者数	6人	6人	2人	0人	1人	3
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	0人	0人	0人	0人	0.8
	入学者数	2人	6人	2人	0人	1人	2.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	4人	4人	4人	4人	0人	3.2
		延べ人数	志願者数	5人	6人	9人	3人	1人
受験者数			5人	6人	9人	3人	1人	4.8
合格者数			4人	3人	9人	2人	1人	3.8
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			4人	3人	8人	2人	1人	3.6
実人数		志願者数	5人	6人	9人	3人	1人	4.8
		受験者数	5人	6人	9人	3人	1人	4.8
		合格者数	4人	3人	9人	2人	1人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	3人	8人	2人	1人	3.6
入学者数		0人	0人	1人	0人	0人	0.2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	4人	1人	11人	6人	3人
	受験者数		3人	1人	11人	6人	3人	4.8
	合格者数		3人	0人	10人	6人	3人	4.4
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	3人	2人	1人	1.2
	実人数	志願者数	4人	1人	11人	6人	3人	5
		受験者数	3人	1人	11人	6人	3人	4.8
		合格者数	3人	0人	10人	6人	3人	4.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	3人	2人	1人	1.2
	入学者数	3人	0人	7人	4人	2人	3.2	
	合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
		延べ人数	志願者数	99人	111人	93人	90人	48人
受験者数			98人	111人	90人	90人	48人	87人
合格者数			97人	101人	88人	89人	48人	85人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			8人	3人	11人	4人	2人	6人
実人数		志願者数	99人	111人	93人	90人	48人	88人
		受験者数	98人	111人	90人	90人	48人	87人
		合格者数	97人	101人	88人	89人	48人	85人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	3人	11人	4人	2人	6人
入学者数		89人	98人	77人	85人	46人	79人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	0.89	0.98	0.77	0.85	0.46	0.79
歩留率	0.92	0.97	0.88	0.96	0.96	0.94

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

R2年度の「学校推薦型選抜」には、系列校の特別選考を含む。



既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：東北文教大学子ども教育学科のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	81人	157人	①取組概要 R4・R5年度入試に向けたオープンキャンパスは、感染症予防として人数制限を設け実施した。また、受験生を対象の入試説明と個別相談をメインとしたキャンパス見学会も実施した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパスの参加者は、本学を第一希望とした年内選抜での受験者が多い。新設組織は、その傾向がより顕著であるため、定員に近い入学者を確保できると予想している。
うち受験対象者数(b)	60人	108人	
うち受験者数(c)	41人	64人	
うち入学者数(d)	34人	59人	
(受験率 c/b)	68.3%	59.3%	
(入学率 d/b)	56.7%	54.6%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

本学子ども学科と競合校の入学志願状況等の比較【資料1】

		R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度	平均入学定員充足率
本学 子ども学科	志願者数	111	93	90	48	76.5
	合格者数	101	88	89	48	
	入学者数	98	77	85	46	
	入学定員	100	100	100	100	
	入学定員充足率	98%	77%	85%	46%	
競合校 幼児教育学科	志願者数	81	92	76	-	76.75
	合格者数	81	91	76	-	
	入学者数	78	84	74	57	
	入学定員	100	100	100	80	
	入学定員充足率	78%	84%	74%	71%	

子ども教育学科入学定員充足状況【資料2】

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入学者	100	105	74	65	60	66
入学定員	90	90	70	70	70	70
入学定員充足率(%)	111%	117%	106%	93%	86%	94%

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	スガ カズヨシ 須賀 一好 <令和5年4月>		修士 (文学)		東北文教大学短期大学部 学長 (令和5.4~令和9.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。